

令和２年度第３回 伊那市総合教育会議会議録

- ◎招集年月日 令和２年１２月１８日（金）
◎開催日時 令和２年１２月２３日（木） 午後１時３０分～午後３時０６分
◎場 所 伊那市役所 庁議室
◎出席者 白鳥市長、笠原教育長、北原職務代理者、田畑委員、原田委員、黒河内委員
◎欠席者 なし
◎出席職員 馬場教育次長、福澤学校教育課長、北林生涯学習課長、早川生涯学習課企画幹、
小松指導主事、北澤指導主事、伊藤教育総務係長

１ 開 会

教育次長

時間となりましたので、令和２年度第３回目の総合教育会議を開会いたします。はじめに市長からご挨拶をいただきます。

２ 市長あいさつ

市長

今年最後の総合教育会議です。いろいろな出来事がありました。特に学校の休業という今までにない場面で色々な皆さんの力で、タブレット端末を使ったりズームで授業をしたり大変有効でした。また、コロナによって見えたものがあり、ヤングケアラー、貧困世帯などそうしたところにも目を向けて対応してきました。そうしたことを進化させ、困難を抱える子どもたちにもしっかりと光を届けていくことが私たちの責務であると感じています。また、一方で中学生のキャリアフェスはコロナでいったん中止を出したが、子どもたちの熱意や、支える職員、外部の皆さんの協力でZoomによるオンラインで開催でき、素晴らしいキャリアフェスでした。こうした新しい技術を使って環境を作り上げていくといったことも、さらに進化させ来年も取り組んでまいりたい。先日、はみんぐやフリーキッズの皆さん、ひとり親家庭などいろいろなところで働いているＮＰＯの皆さんと話をする機会があり、こうしたことも、私たちが取り組んでいくテーマとして、スピード感をもって進めていきたいと考えていますので、意見ををお願いします。本日もいくつかあるがよろしくお願いします。

教育次長

続いて教育長からお願いします。

教育長

今まで経験したことがない対応をそれぞれの場所で求められる年でした。そうした中でも、この会は、本来的な事柄を大事に、子どもに近いところにおられる方たちが直面し、感じておられる課題について、市長と一緒に考えることできる機会として大変有意義なものであると感じています。今日はそうした中で出てきた例えばＩＣＴを活用した学習支援、そうしたことも成果が上がってきているそのことについても、お話をさせていただくことができます。

また先ほど市長から子どもの熱意について言ってくださいましたキャリアフェスについて、それから子どもに近いところのことについても、成果を整理しながら課題についても考える機会にしたい、そのように思うところでございます。どうぞよろしくお願いします。

教育次長

それでは協議事項に入りたいと思います。

ここからは市長の進行でお願いいたします。

4 協議事項

(1) 市長と教育委員との懇談

○経済産業省のE d T e c h 導入補助金を活用した取組について

市長

経済状況が大変なご家庭の年末年始について非常に心配しています。市の職員にも呼びかけて家であって、提供できるものを出してほしいということで受付をしています。また、パネックスさんにも声をかけて 2,000 個のパンを手配し届けるということでやっています。協力できる部分があれば、ぜひお願いをしたいと思います。

教育長

学校には子どもと非常に近いところに教員がいます。各学校では、もう一度丁寧に、子どもの様子を関係のところに連絡するように依頼しました。

市長

現場にいる人が一番わかるはずなので、先生方が見逃すことがないように、夢、希望、食べ物を子どもたちに届けて貰いたいと思います。それでは、最初に、経済産業省のE d T e c h 導入補助金を活用した取組について報告をお願いします。

学校教育課長 経済産業省の補助金の活用状況について説明

川上伊那西小学校長 Q u b e n a について、i p a d を使った説明

市長

子どもたちはすぐに慣れていくと思いますが、先生方の思いが無いと広がりません。I C T 活用推進センターを使ってもらいながら、先生方の思いが変わっていくこと願っています。今の説明に質問、意見があればお願いします。

教育委員

家庭で使うことについて、今後の展開はどうですか。

校長

ご家庭に Wi-Fi の環境があれば使うことが可能です。宿題や予習に使うことも可能になると思います。

市長

不登校の子どもたちもうこれで勉強できるはずなので、これを通じて慣れていって学校へ登校できるようなことでできればいいと思います。

教育委員

例えば、先生はこの生徒がここまで問題を解いており正解率はこれくらいなど、全部見えると思います。今後の展開として遊びと学びを一体化して子どもたちが僕はここまで進んでいる、そ

れが成績の評価、競争ではなく進んでいける、学校の授業も追い越して、小学校 5 年生が中学 3 年の問題解いているというようなこともこれはこれとして評価しながら、授業では学校に来る意味が何かと問うと、自分の回答とは全然違う切り口で物事を考えている他人の考え、人とのやり方など、講座の中で反転学習的に基礎知識を入れることに制限しないというやり方もあるし、一つの魅力として面白いと思います。

川上校長

やったところには必ず印がつくので、個人個人で取り組んでいても、ここまでできたという満足感、やったぞっという気持ちには多分なれると思います。学校としては、みんなで取り組むことが大事で、自分で自分のやりたいことをやる、基礎知識をつけるように使っていくものだと思います。学校はみんな一緒に部分を大事にしています。

市長

他どうでしょうか。

教育委員

例えば 4×7 は 28 という一つの掛け算では何パターンも見せている、ただ単に記憶して覚えるよりは、掛け算がどのようなアプローチでなっているかわからないという子どもたちがいると思いますが、それがすごくよくわかっていいと思いました。

教育長

転入生の担任の先生は、転入してこられた児童とのやり取りとをどんなふうにご覧になったのですか。

川上校長

夏休み前に急に来られたご家庭には、今こんなことをやっています、こんなこともあります、今やっているところを取り組んで欲しいと話をさせていただきました。

教育長

こういう機器を使いながら、子どもたちがどういう思いを抱きながら、自分が取り組んでいることを見ているか、感じているか、とても大事で、生に近い声を集めてそれで子どもたちがどう思っているか私たちが分かってくること、また先生方がどうやったらそういうところがわかるか見えてくると良いと思います。

市長

クラスに例えば 30 人いました。進めていく中で、どうしても理解ができなくて、不正解ばかりの子には別の手当てをして、分からないままということが無いようになっていますか。

川上校長

そのようにやっていく必要があると思います。どこでつまづいているかについては、これを見てわかる部分があります。そこにもう 1 回先生と一緒に取り組んでいくような形を取っていく必要があると思います。

市長

去年、フィンランドのラップランド大学付属小学校を視察しました。分からない子は別の教室

に行って理解をするまで教える、これを繰り返している。そういう進め方を行っていました。これを使えば、分からないままという子が増えることは無くなるのに有効かなと思います。

教育長

教員にとって具体的な示唆を与えてくれる、こういう支援が必要だとわかる、遠隔でも使えるのがいいと思います。

教育委員

例えば何問か進んできた時、前の問題に戻りたいときはどうあれるのですか。

川上校長

スキップの機能があり、「問題を選ぶ」と、最初に戻る、これで元に戻ることも可能です。

教育委員

子どもがつまづいた時に近い過去へ戻る、これは非常に大事なことで、それが今のシステムに無いとしたら、そういう操作を教えていただくことで、段階を踏んで系統的に学んでいるという意識が子どもの中に出てくると思います。また、予習も含め演習や宿題で使うことが主で繰り返してすぐ使うこともできる、これは力になると思います。授業で考えると、子どもたちはこの問題に対する問をもって追求していくターンが大事だと思います。例えば6年生の円のところでは、最初に円に内接する四角形があり、どちらの面積が大きいかという時、何でそんなことをやるのだろうかということは普段の授業の中で出てくることであり、振り返ってこの問題があれば出てくると思います。

教育委員

実際に体験してみて、漢字練習や算数のドリルなどは想像できますが、今後、社会や理科はどのようなソフトがあるのか、どんな形で使えそうか、ドリルとどこがは違うのか、その辺りはどうでしょうか。

川上校長

来年度から5教科揃うようです。国語、社会、理科は考えてやるものがあるかどうかわかりませんので、どう使えるか考えていく必要があると思っています。

市長

今後の予定はどうですか。

学校教育課長

今年度は経産省の補助事業により、業者から無償で提供を受けています。再年度からは5教科全て揃うということで、1人1ヶ月600円、年間7200円必要であり、予算を確保したいと思います。

市長

それでみんなの理解が進めばいいと思います。

教育委員

理屈が分かってわかることとスラスラできることとは違い、スラスラとできないと使えないと

思います。足し算や掛け算は、ドリルの様に繰り返してやることで、すごく力が付く、家でもできるようになると思います。

市長

来年度伊那西小学校でスタートしてそのあとはどうですか。

学校教育課長

実証で行っているのが伊那西小学校と伊那小学校です。今後、中学校にも取り入れて行く予定です。実証事業が来年度も同じ形になるかわかりませんが、やってみたい学校があれば、中学校でも令和4年度に予算化できればと考えています。

市長

先生の授業の準備を軽減でき、働き方も改革にもつながることも期待できますか。

川上校長

プリントを用意していたことがこれで済むことで、軽減につながると思います。

市長

ありがとうございました。では、他になれば次のテーマにいきますがよろしいですか。

○中学生キャリアフェス

市長

次に先日行われました中学生のキャリアフェスについてお願いします。急遽分担しながら、Zoomも使ってということで、この振り返りと効果また課題を出してもらいたいと思います。それではよろしくお願いします。

学校教育課長から資料により説明

市長

実行委員長の田畑さんからお願いします。

田畑委員長

市長の英断に感謝しています。感染者が出ている中、中止もやむなしということもある中、12名の子どもの熱意を受け、私から教育長へ伝え、教育長から市長へ伝えることでZoomでの開催の決断をいただきました。こちらをご覧お願いいたします。参加いただきました企業の皆様方、学校の先生方、子どもたちから出していただいた感想が概ねまとまりましたので、こちらを説明いたします。

市長の英断に心から感謝で、コロナの感染者が出て、中止もやむなしということで、実行委員12名の生徒に朝、基本的には中止だということの連絡をさせていただきました。けれども万が一のときにはZoomでということも動いていたので、生徒の思いを私の方に聞かせていただいて、教育長に伝えて、教育長から市長の方にお話させていただいて、最終的に実施の決断をいただきました。

12名は涙を流しながらコロナに負けたくない、何か形を変えてやれないか、本当に心を一つにして、私に一任していただいて、子どもたちの熱意をお伝えしました。

本当にやるとやらないのでは大違いで、子どもたちが社会の大人たちに対しても、思いを膨らましていただきました。今日の感想を見ていただいて、特徴的だと思うものがあります。夢は口に出す、前までは東京に行きたかったけれども考え方が変わった、将来別の場所に行くことになってもこの伊那に戻ってきてここで仕事をし、伊那を盛り上げていけたら良い、面白かった、スムーズだった、すごいものを見た。新しい試みですごい、ちょっと不安でしたが実行委員がすごく頑張ってくれて感謝しかない、というようなことが、生徒の口から出たり、人のために自分ができることという考えを持ち、一生懸命働いたりする人がたくさんいて、私もこんな素敵な人になりたいと思う、などがあります。

Zoom は熱が伝わりにくいと言われていたのですが、実行する側の運営の子どもたちも3日間という短い時間で、初めて参加いただいた企業さんも中学生と Zoom を通じた形でリアルではなかったけれど、心を通わして本当に良かったと感想をいただきました。やり方は工夫して成果を得るということで、英断していただいた市長に本当に感謝申し上げます。

市長

裏方で頑張ってもらった小林さん、どうですか。

小林

地域おこし企業人ということで3年ほど企画部に席をいただいております、N T T 東日本から来ていますが、今年、新たに実行委員に声をかけていただいたときはコロナが始まった頃でした。オンラインなるかもしれないということで、実際に決断をいただいたのが5日前ということで、会社は動かせないし、私のノウハウ、スキルも活かせることはほとんどなかったのですが、これまでの経験により進められ、伊那のすごさを見ました。現場にいる生徒たち、それを支える先生たちが、うまく配置されており、本当に能動的に動いていました。ネットワークが遅くなり音声が届かない、動きが遅くなった時に大人からは文句は来るが、生徒のブースではそれに備えてノートに書き記したパラパラ漫画みたいに、その場で紙芝居をめくるようにしてやり取りを始める。チャットでキャッチボールを始める、音が届かないことに文句を言うのではなく、その環境でどう対応するか、すぐ切り替える生徒たちが何人もいたので大変驚きました。良いシステムに注力することよりも、今あるシステムをどうやって運用していくかがシステムを扱う基本だと思っていますので、そういうレベルに中学生がいるということに対して非常に驚きました。

自分の子どももこういう環境で学ばせてあげたいと思いました。一つ良いなと思ったのは、議論の中で、伊那で作った製品が世界で使われていることを知って、伊那からいろいろなことができると思いました。私も子どもに言いがちなのは大学を出て東京へ行って、大きい橋を渡りなさいみたいなことですが、この街で世界に向けて発信できる、あるいは日本中で活躍できるような成果を作っているということを、中学生が肌で感じるこのイベントは、非常にいいと思います。

実行委員に負荷がかかること、週末に集まってくるのが大変、そういうような声もありましたが、この営みを5年10年と続けて、彼らが社会に出てきた時に、そこから世界を目指す、あるいは伊那に帰ってきて、この街のリーダーになっていくというそういう人材になる。ある意味トリガーケースだと思っていて、彼らを中心に学校、地域が盛り上がっていく、いい取り組みを見せていただいた、また来年も声をかけていただければと思います。

市長

ありがとうございます。皆さんもご覧になった感想とか課題を意見交換したいと思いますどうぞでしょうか。

指導主事

息子が中2の今担任をしています。今回はコロナで中止と言っていたが、急遽こういう形できて、本人がびっくりしていました。子どもたちも自分も感じましたが、伊那の人間の凄さを初めて知ったと言っていました。田畑委員さんが熱という言葉で言うけれども、子どもたちも伊那の大人が持つ熱を感じたと思います。

伊那の持っている技術力のすごさをこのZoomを通して参加した生徒が気づいて感じた。コロナの中でこれをやれることがすごいと話してくれました。

指導主事

修学旅行にしても、キャリアフェスにしても、卒業式にしても、子どもたちも、保護者の方も感謝してくれます。修学旅行では、長野県にこんな素敵な場所があるとは思わなかった、先生たちはこんなに頑張ってくれた、という声が聞こえてきました。いろいろな意味でコロナが教えてくれたものが見えました。自分たちも含めて意識改革していかなければならないし、校長さんにも、その先頭に立ってもらいたいと思います。いろいろ考える時期になっていると思います。

市長

いろいろな企業の皆さんとも話をするなかで、完全に働き方が変わってきています。丸紅では出社する社員は2割ぐらいしかないし、ソフトバンクは15%、JRバス関東も本社ビルいる必要ないということで、次の建物を探しています。リニアが通る時代になる10年以内には、そういう働き方が普通になってきます。東京一極はおそらく完全に崩れてくると思います。地方で働いて、農業をしながらでもいいし、余暇を楽しみながらでもいい、そういう時代に入っていると思っています。軽井沢では別荘の空きはなく、新築ブームになっています。保育園、小学校、中学校の一貫教育の学校ができ、移住が始まり、都会の富裕層の子どもたちが集まってきています。子どもたちが首都直下型地震や東海地震が起こると言われている危険な都会に行くのではなく、ここで家族と一緒に生活できる、しかも世界を相手に仕事ができる時代だということを子どもたちに私達の口からきちんと伝えていきたいと考えています。私も小学校、中学校のとき、修学旅行は奈良、京都が定番でした。今回それが無くなったということで、どうして今までそんなことを繰り返してきたのかと思います。今までの固定概念がずいぶん崩れたのも、今回のコロナおかげかなと思っています。

教育委員

会社としての参加は若い社員、スタッフに任せて、自分はいろんなブースを回りました。人数に制限があり、全て見ることはできませんでした。また、ブースに入ったところ、中学生が入ってきたと期待したら、私だったということでがっかりされたこともありました。人が集まっていないブースもあり、来年以降、集まる仕組みがあったら良いと思いますが、全体としては良かったと思います。

当社では若いスタッフに中学生の対応を任せましたが、若いスタッフがどんなプレゼンテーションするのかベテラン社員も興味があり、今回Zoomに入れば見られるということで、若いスタッフが会社の方針を語るのを見て驚いており、これまではロジテックアリーナに行った人しかわからなかったものが、会社全体で見られることは、本当にこの技術革新のおかげだと思います。

他の会社では、例えばスワニーさん、ヤマウラさんは設計図、CADですね、設計の3Dの場面も見られる形でプレゼンテーションをしていて、これも体育館では見られない、Zoomならでということ非常に素晴らしかったと思います。

市長

企業参加も急遽だったが60以上の参加がありおかげでした。他どうでしょうか。

教育長職務代理者

急遽でしたので、オープニングから始まって大変だったと思います。ほとんど行き当たりばったりで、頼れる人がいない、そういう中で出来るということは、これまでの積み重ねと徹夜までしてくださった皆さんの思い、そういうものを持って、先ほどあったような言葉になってきたのかなと思いました。

今回は、この状況下で厳しいと思いましたが、開催を決断いただいたこと、やめることはいつでもできるが、どうすればできるか考え、やり遂げることができるという大きな自信を得ることができたと思いました。

教育委員

文化祭のときもオンラインで各教室や会議室でやおり、慣れてきている感じがあって、喋り方や、写っているときの自分の表情、立ち位置など、子どもたちはよく見せたい、うまく伝えたいというところに敏感ということを感じました。

市長

昔の子どもたちと違って、本当に自分の一番いい表情をしたり、話し方もおどおどしたりすることはなく、堂々としていました。

教育委員

これがあつたらもっと良かったと思うことがあり、教室でみんなが一斉に繋いだり、それぞれの企業に繋がったりでハウリングが起きやすい、端末が1人1台の環境であるのでイヤホン、マイクセットみたいなものがあるとスムーズで、それは個人なのか市で提供するものなのか、通信を使った授業や音声を受け取るものに対して、その辺のインフラ整備について今回一つヒントとしてもらえたと思います。

小林

今後、授業とかで使うのであれば、必要な文房具だと思います。

市長

状況を調べながら対応していきます。

教育次長

タブレット自体も今後、国がどう考えていくか、自治体が全部揃えるのか。文房具として買うのかなど今後いろいろ出てくると思います。

市長

国は地方自治体が持っている基金を使わせたい、更新は市町村で対応となるかもしれません。他はどうでしょう。無いようでしたら、この件については終わりにします。来年も今年のこの経験を生かしながら進めていただきたいと思います。

(2) その他

教育次長

ありがとうございます。それでは「その他」であります。何かご発言があればお願いします。よろしいでしょうか？ありがとうございます。こういった話をもとに、より良い子どもた

ちへの支援ができればと思いますのでよろしくお願いします。

5 閉会

教育次長

以上をもちまして3回目の伊那市総合教育会議を終了いたしますどうもありがとうございます。